

- 1 教育事業名 「アジアの架け橋 沖縄スリランカプロジェクト」～命と平和を未来へ～
- 2 ねらい 日本（沖縄）とスリランカの中学生、そしてそれをリードする両国の大学生チューターが「命と平和を未来へ」のテーマのもと交流することで、スリランカ中学生の日本に対する理解を増進し、また、日本（沖縄）の青少年の国際的視野を醸成し次世代リーダーを育成することをねらいとして実施した。
- 3 期 日 受入期間 平成 28 年 9 月 22 日（木）～10 月 1 日（土）9 泊 10 日
派遣期間 平成 28 年 11 月 30 日（水）～12 月 8 日（木）8 泊 9 日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家 沖縄県立糸満青少年の家
- 5 募集定員 44 名
- 6 参加人数 43 名
- 7 参加者内訳 スリランカ招へい生徒 16 名 引率 4 名 日本（沖縄）中学生 16 名
大学生チューター（日本人 4 名、スリランカ人 3 名）
- 8 講師 企画委員
 - ・ディリープ・チャンドララル氏（沖縄大学副学長）
 - ・桜井国俊氏（沖縄大学名誉教授）
 - ・井上章二氏（琉球大学教授）
 - ・名城政一郎氏（沖縄尚学高等学校附属中学校校長）
 - ・金城英和氏（沖縄尚学高等学校附属中学校教頭）
 - ・玉木馨氏（NPO 法人アジアチャイルドサポート専務理事）
 - ・大城勝矢氏（沖縄県教育庁生涯学習振興課指導主事）

9 実施プログラム

【受入事業】

月 日	カテゴリー	主な内容	宿泊
9 月 22 日（木）	生活習慣	・那覇空港到着後 施設へ移動	糸満青少年
9 月 23 日（金）	生活 歴史・文化	・オープニングセレモニー ・交流中学校訪問 ・授業体験 ・文化交流会 ・給食体験 ・ホームステイ	ホームステイ
9 月 24 日（土）	生活 文化	・ホームステイ（終日）：ホストファミリーとの交流	ホームステイ
9 月 25 日（日）	平和 環境	・渡嘉敷島へ移動 ・海洋研修 ・平和学習：ディスカッションⅠ	国立沖縄
9 月 26 日（月）	平和 環境	・観光学習 ・平和学習：講話、ディスカッションⅡ ・渡嘉敷村長表敬訪問 ・文化交流	国立沖縄
9 月 27 日（火）	文化 平和	・スポーツ・レク大会計画 ・スポーツ・レク大会 ・和太鼓体験	国立沖縄
9 月 28 日（水）	環境・文化 平和	・平和学習：集団自決跡地見学 ・クラフトづくり ・海岸散策 ・星座観察	国立沖縄
9 月 29 日（木）	歴史・文化 生活	・沖縄本島へ移動 ・沖縄美ら海水族館内見学 ・さよならパーティー	糸満青少年
9 月 30 日（金）		・クロージングセレモニー ・成田空港へ移動	成田ホテル
10 月 1 日（土）		・スリランカへ帰国	

【派遣事業】

月 日	カテゴリー	主な内容	宿泊
1 1月 30日 (水)		・出発式 ・那覇空港から成田空港へ	成田
1 2月 1日 (木)	生活・文化	・出国 (成田空港からバンダラナイケ国際空港へ) ・スリランカ到着 ・歓迎式 ・交流現地へ移動	HOTEL GAJAMADARA
1 2月 2日 (金)	文化・生活 平和	・オープニングセレモニー ・現地交流校訪問 ・授業体験 ・平和学習：講話、ディスカッション ・ホームステイ	HOTEL GAJAMADARA
1 2月 3日 (土)	文化・生活	・ホームステイ (終日)：ホストファミリーとの交流	HOTEL GAJAMADARA
1 2月 4日 (日)	生活・歴史 文化・環境	・ホームステイ (午前中) ・現地フィールドワーク (瞑想体験、水プロジェクト現地訪問)	HOTEL GAJAMADARA
1 2月 5日 (月)	環境 歴史・文化	・現地学習 (シーギリヤロック) ・シンハラ語研修	HOTEL GAJAMADARA
1 2月 6日 (火)	環境・歴史 文化・生活	・現地学習 (象の孤児院、紅茶工場、仏歯寺、セントラルマ ーケット)	HOTEL GAJAMADARA
1 2月 7日 (水)		・スリランカ教育省表敬訪問 ・現地学習 (買い物体験、国立博物館)	機内泊
1 2月 8日 (木)		・入国手続き ・成田空港から那覇空港へ ・解散式 (那覇空港) ・解散	

10 事業の様子



受入事業：初めての書道体験



受入事業：ホームステイ



受入事業：海洋研修



受入事業：平和ディスカッション



派遣事業：瞑想体験



派遣事業：シーギリヤロック登山

11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

【日本人生徒】

- ・日本の文化や歴史を改めて理解することで、自国への愛がますます深まった。日本の良さを世界に伝えていきたい。
- ・初めて英語以外の言語を勉強していい刺激を受けたので、今後も新しい言語に挑戦していきたい。
- ・日々心を穏やかに保つ心の平和、人を気にかけて感謝する心の温かさなど、自分の身近な平和を守っていきたい。
- ・外国の人達にも役に立つ仕事がしたいから、自国の文化を深く知り、相手のいろいろな文化を知る努力をする。

【スリランカ生徒】

- ・日本人の友達との関係をずっと守り、日本人と一緒にいろんなことに取り組みたい。
- ・スリランカ人の間で平和と命についてもっと広げられると思った。自分の国のためにたくさんやるべきことがあると分かった。
- ・自分の国から教えられるものと、自分の国が学ぶべきことがあることに気づいた。
- ・時間を守ること、自分のことは自分ですること、平和でお互いに協力し合って生活することを学んだ。

12 担当者所見

(1) 成果

- ・日本人参加者へ事業前後に実施したアンケート9項目（「語学力」「コミュニケーション能力」「主体性・積極性」「チャレンジ精神」「協調性・柔軟性」「責任感・使命感」「異文化理解」「日本人としてのアイデンティティ」「外向き志向」）の全てにおいて向上がみられた。アンケートの自由記述においても、「医者になって、日本のみならず、発展途上国の人も助けたいと思うようになった」「外国人ともっと分かり合えるように英語をもっと勉強する」など国際貢献や異文化交流に対して前向きな意見がみられ、本事業を通じて、『アジアの架け橋』となる次世代リーダーに必要な、チャレンジ精神や広い視野が養われたと考える。
- ・平和講話や戦跡見学から沖縄戦の悲惨な歴史を学び、平和な未来に向けて自分達にできることを話し合うことにより、命の尊さを実感し、平和づくりの担い手としての自覚を高める事ができた。また、事業終了後に沖縄尚学高等学校附属中学校、沖縄大学で行われた報告会において、本事業を通して強くした平和への思いを、異文化理解の実践者として力強く発信することができた。
- ・受入事業における沖縄空手やスリランカ芸能の相互発表、スリランカ招へい生徒による各ホームステイ先家庭でのカレー作り、和太鼓体験等により、両国の伝統的な芸能や武術、食文化への関心を高めた。派遣事業においては、世界遺産のシーギリヤロックや仏歯寺等での学習を通し、スリランカの豊かな自然環境や歴史・伝統文化について理解を深めた。
- ・派遣事業の参加者を中心に、スリランカとの関わりの継続と、スリランカのためにできることはないかという声があがっている。その一歩として、シンハラ語を本格的に学びたいとの強い要望があり、チャンドララール企画委員長の協力のもと、シンハラ語教室の実現に向けて話し合いが進んでいる。

(2) 課題

- ・企画委員会や事前学習会の実施においては、本所の企画指導専門職員が沖縄本島への宿泊を伴った出張で対応する必要があり、特に繁忙期における海洋研修の研修支援との両立には工夫が必要である。
- ・受入事業における共同生活の中で、本音をぶつけ合いながら友情を深め、実体験を通して異文化理解が図られた一方、互いの思いを上手く伝えられずに十分理解し合えなかった生徒もいた。それを補う意味でも派遣プログラムの果たす役割は大きく、受入プログラム参加者全員が、派遣事業に参加できるような事業運営の必要性があると考えられる。

- ・派遣事業においては、虫刺されによる足の腫れやウイルス性胃腸炎になった生徒がおり施設職員がその看護にあたるため、プログラムの変更を余儀なくされる場面もあった。生徒の体調管理、事業充実を図る上でも、看護師の同行等、スタッフの増員を検討する必要がある。
- ・スリランカ現地での事前学習会や渡航者のビザ申請等は、現地スタッフがボランティアとして行っており、謝金等の対応の必要性がある。
- ・交流プログラムにおける異文化理解が更に円滑に図られるよう、両国の文化や習慣等の違いについて事前研修の内容充実を図る必要がある。
- ・交流プログラムの体験活動が、自発的なボランティア活動へスムーズにつながられるよう参加者応募、事前学習の段階から事業後の取り組みについて具体的な行動目標を持たせる必要がある。
- ・渡嘉敷島の教育資源を最大限活用し、更にその教材化を図ることで、各テーマに対する学習効果をより高めることができ、島内プログラムの充実が図られると考える。